

令和7年8月4日

四万十市産業イノベーションセンター運営業務公募型プロポーザルに関する質問及び回答

番号	質問	回答
1	実施要領「10 プレゼンテーション及び質疑応答審査」(5) 審査方法につきまして、「評価点は委員1人につき100点満点とする。」とありますが、審査委員会の方々は市役所の職員様のみで構成されるご予定でしょうか？ 本プロポーザルは、産官学金連携を推進する目的もあると捉えており、産官学金各種機関から委員を選出される可能性もあるかと考え、ご質問いたしました。 お答えできる範囲で構いませんので、ご教示いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。	審査委員につきましては、四万十市産業イノベーションセンター運営業務公募型プロポーザル審査委員会設置要領「以下（要領）という。」第3条に基づき、市役所内からの6人で構成され、1人につき100点満点としております。 9/10開催予定の委員会には、審査委員とは別に、同要領第4条第4項に基づき、関係団体からオブザーバーとして数名程度出席いただき意見を聴取する予定としております。
2	実施要領「10 プレゼンテーション及び質疑応答審査」(5) 審査方法の別表につきまして、見積額は「見積費用について評価する。」とありますが、具体的な評価基準はございますでしょうか？ 例えば、「10点×（最低提案見積価格／提案価格）」等といった計算式を用いるのか、見積における項目の妥当性を評価するのか等、具体的な評価基準がございましたら、お答えできる範囲で構いませんので、ご教示いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。	見積における項目の妥当性を評価するのではなく、見積額の総額を評価します。
3	仕様書「2 業務の背景・目的」【背景】9行目に「60%超が“いいえ”と回答しており（全国水準より悪い）」という記載がございますが、この「全国水準」とはどの調査結果をもとにされているのかご教示いただけますと幸いです。 全国水準と四万十市でどれほどのギャップがあるのか把握したくご質問させていただきました。 回答のご検討よろしくお願いいたします。	全国の県教育委員会主導ですべての公立高校に対し同じ項目のヒアリングを毎年実施しており（非公表）、その結果となります。

4	仕様書「2 業務の背景・目的」【背景】13行目に「旧来の経営スタイル」との記載がございますが、「業務プロセスのデジタル化や自動化が進まず、紙・電話・対面などアナログな手段に依存し、情報共有や意思決定が特定の個人の経験や勘に依存する属人的な体制で構築されており、急速に変化する市場環境や顧客ニーズに対して、タイムリーに情報を把握・分析・活用できない非データ主導の経営スタイル」と認識しております。こちら概ね相違ございませんでしょうか？	ご認識のとおりです。
5	・仕様書「6 業務内容」の説明文 2行目に「市が雇用する地域おこし協力隊1名と協力して」との記載がございますが、協力隊の方につきましては、一定のデジタルスキルや企業支援・人材育成スキルを持ち合わせた方となりますでしょうか？お答えできる範囲で構いませんので、ご教示いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。	地域おこし協力隊の募集要項に「研修制度は整っておりますので、コンサルティング未経験でも問題ありません。」という内容で募集していますが、応募者の中から、できる限り当該業務の遂行にふさわしいスキルや経験を有する方を採用する方針としています。
6	仕様書「6 業務内容」(3) 人材育成業務のイに「セミナー・研修」とありますが、イノベーションセンターで「セミナー・研修」を開催する際の最大収容人数の目安をご教示いただけますでしょうか？	約20人が最大収容人数と考えています。
7	仕様書「6 業務内容」(4) 産官学金の連携推進業務において、「学生や企業が参加可能なセミナー、イベント、交流会等を2回以上実施」とありますが、こちらについては(3) 人材育成業務の「関連セミナーや各種研修」とは別物でしょうか？本業務を通して、最低何回「セミナー、イベント、各種研修等」を開催すればよいかご教示いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。	(3) 人材育成業務の「関連セミナーや各種研修」については、DX人材の育成を目的として実施していただき、(4) 産官学金の連携推進業務における「セミナー、イベント、交流会等」については、人材循環を目的として実施いただきたいものです。 回数につきましては、仕様書のとおり令和7年度において、(3) 人材育成業務については1回以上、(4) 産官学金の連携推進業務本業務については2回以上、通算3回以上の開催とさせていただきます。